講演の電子化 ~ 2000年若手会夏の学校講演

谷口 博 (北大・地球環境科学研究科)・ * 加藤 雅也・前坂 剛・杉山 耕一朗
福田 陽子・横山 誠 (北大・理学研究科)
藤本 徳彦 (北大・工学研究科)・2000 年夏の学校実行委員会

1. はじめに

2000 年 7 月に北海道大学が主幹となって，第 12 回日本気象学会夏期特別セミナー (若手会夏の学校) を行なった．その際招待講演の内容を「受講者が振り返える」，または「未受講者が知る」ことができるような形に保存したいと考えた．そこで 2000 年若手会夏の学校招待講演の内容を電子化し，CD-ROM に保存した．

2. 講演の電子化

講演資料を保存する際，ノートや使用した OHP などを紙で残すより OHP と音声を電子化し PC で閲覧可能な状態にして保存するほうが保管が容易である．収録メディアを CD-ROM にするとたいていの PC で利用できるので使いやすい．

資料の収録メディアを CD-ROM にすると，電子化した音声と画像の総容量は 640 MB 以下にする必要がある．そこで録音された音声は容量が小さく，種々のプラットフォームで再生ソフトが存在する MP3 形式にした．画像は圧縮率と画質を考慮し PNG 形式にした．

資料の閲覧は既存の標準的なソフトを利用して行ないたい．講演資料は HTML 形式にすることにより，種々のプラットフォームで閲覧することが可能となる．講演内容を録音した音声は OHP の画像に対応させて聞くことが出来るようにしたほうが使いやすい．そこで音声データを各 OHP 画像にあわせて分割し，画像と音声を同時に閲覧出来るようにした．

今回行なった電子化作業の大まかな流れを 図 1 にまとめる．できあがった電子化資料は Windows, Mac，UNIX のどれでも読めるように iso9660 をベースとしたフォーマットにし，ハイブリッド形式のイメージを作成した．出来た CD イメージを cdrecord というプログラムを利用して CD-ROM に焼いた．

3. 作業して気がついた点

今回の方法では音声データを電子化及び分割処理するのに非常に時間がかかった．この処理は録音に MD を用いず PC を使用し，希望するデータ形式にして録音すれば省略可能である．複数の人間が分担して電子化作業をする場合，作業内容をわかりやすくルーチン化する必要がある．

謝辞

2000 年若手会夏の学校招待講演を引き受けて下さり，講演内容の電子化を御了承下さいました，上田博先生，太田幸雄先生，塩谷雅人先生，林祥介先生に感謝致します．

参考文献

http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~epnetfan
/zagaku/2000/1201/

第 12 回若手会夏の学校実行委員会，2001 : 第 12 回日本気象学会夏期特別セミナー (若手会夏の学校) の報告，天気，**48**(3 月号掲載予定)．